

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	売	掛	金			
立	替	金	土	地	仮	払	金	買	掛	金					
預	り	金	仕	入	旅	費	交	通	費	通	信	費			
租	税	公	課	給	料	支	払	手	数	料	支	払	保	険	料

1. 不動産業を営む当店は、販売目的で土地を¥2,000,000で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。また、購入に伴う手数料¥180,000は現金で支払った。
2. 出張費用として現金¥50,000を概算払いしていたが、本日従業員が出張から戻り、これを精算した。精算に際して従業員が立て替えた不足額¥6,000を現金で支払った。
3. 得意先から掛代金¥300,000が本日、当店の普通預金口座に振り込まれた。当該取引については振込手数料¥400(先方負担)がかかっている。
4. 従業員に対し、給料総額¥170,000から源泉所得税¥2,860および本人負担の社会保険料¥25,000を差し引いた残額を普通預金口座から支払った。
5. 郵便局で1枚¥200の収入印紙を10枚購入し、代金は現金で支払った。なお、これらはすべて購入後直ちに使用している。

第2問 (8点)

下記の補助元帳および補助記入帳の記入にもとづいて、答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。なお、各日付の取引は下記の各帳簿にすべて記入されており、勘定科目は次に示すものを用いること。

当座預金 売掛金 買掛金 発送費 売上 仕入 受取手形 支払手形

当座預金出納帳

平成30年	摘要	預入	引出	借/貸	残高
1/1	前月繰越	500,000		借	500,000
	10 長野商店仕入れに係る当社負担発送費		2,000	〃	498,000
	20 愛知商店、売上げ	200,000		〃	698,000

売掛金元帳

愛知商店

平成30年	摘要	借方	貸方	借/貸	残高
1/20	売上げ	280,000		借	280,000
	30 返品		80,000	〃	200,000

買掛金元帳

長野商店

平成30年	摘要	借方	貸方	借/貸	残高
1 10	仕入れ		300,000	貸	300,000
15	約束手形振出し	200,000		〃	100,000

支払手形記入帳

平成30年	摘要	金額	手形種類	手形番号	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	てん末		
							月	日	月	日		月	日	摘要
1 15	買掛金	200,000	約手	D123	長野商店	当店	1	15	2	18	CPA銀行			

第3問 (30点)

野田商店の次の〔平成29年11月中の取引〕および答案用紙にもとづいて、答案用紙の残高試算表を完成させなさい。なお、当期は平成29年1月1日から平成29年12月31日までの会計期間である。

〔平成29年11月中の取引〕

- | | |
|---|--|
| <p>(1) 現金に関する取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 当座預金口座からの引出し ¥ 200,000 b. 従業員出張費の概算払い ¥ 20,000 c. 電話料金の支払い ¥ 12,000 d. 商品発注に伴う手付金の支払い ¥ 20,000 e. 商品受注に伴う手付金の受取り ¥ 15,000 f. 水道光熱費の支払い ¥ 6,000 g. 従業員の源泉所得税の納付 ¥ 12,000 h. ICカードへのチャージ ¥ 10,000 i. 商品の売上げ ¥ 672,000 j. 現金実査による現金不足額 ¥ 1,600 | <p>(3) 売上に関する取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 現金売上 ¥ 672,000 b. 当座預金売上 ¥ 40,000 c. 掛売上 ¥ 356,000 d. 手付金売上 ¥ 25,000 <p>(4) 仕入に関する取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 当座預金仕入 ¥ 700,000 b. 掛仕入 ¥ 126,000 c. 約束手形仕入 ¥ 30,000 <p>(5) ICカードに関する取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 現金からのチャージ ¥ 10,000 b. 電車の移動による利用 ¥ 4,160 c. 事務用消耗品の購入による利用 ¥ 3,380 <p>(6) その他の取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 売掛金の約束手形による回収高が¥356,000ある。 b. 土地（取得原価¥700,000）を¥800,000で売却した。なお、売却代金は翌月末に受け取る予定である。 |
| <p>(2) 当座預金に関する取引</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 現金引き出し ¥ 200,000 b. 約束手形の期日入金 ¥ 100,000 c. 約束手形の期日出金 ¥ 50,000 d. 売掛金の回収 ¥ 450,000 e. 買掛金の支払い ¥ 510,000 f. 商品の仕入れ ¥ 700,000 g. 商品の売上げ ¥ 40,000 h. 銀行からの借り入れ ¥ 485,000
(利息¥15,000控除後) i. 従業員に対する給料の支払い ¥ 160,000
(源泉所得税¥18,000控除後) | |

第 4 問 (12 点)

次の宮根商店における各取引の伝票記入について、空欄(ア)～(エ)に当てはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。なお、使用しない伝票の解答欄には「記入なし」と答えること。また、商品売買取引の処理は 3 分法によること。

(1) 廣瀬商店に対し商品を ¥120,000 で売上げ、代金のうち ¥30,000 は現金で受取り、残額は掛とした。

入金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
(ア)		(イ)	120,000		

(2) 赤松商店から店舗用の棚を ¥600,000 で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

出金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
	(ウ)	(エ)			

第 5 問 (30 点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成 29 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までである。

(1) 決算整理前残高試算表

平成 29 年 12 月 31 日 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
33,200	現金	
2,600	現金過不足	
88,000	当座預金	
37,000	受取手形	
55,000	売掛金	
60,000	繰越商品	
150,000	備品	
420,000	土地	
	買掛金	84,000
	借入金	120,000
	貸倒引当金	200
	備品減価償却累計額	56,250
	資本金	469,350
	売上	778,200
	受取地代	21,600
470,000	仕入	
91,000	給料	
67,000	水道光熱費	
18,000	通信費	
36,000	支払家賃	
1,800	支払利息	
1,529,600		1,529,600

(2) 決算整理事項等

1. 期中の現金過不足について、¥2,500 は水道光熱費の記入漏れであることが判明したが、残額については原因不明のため、雑損または雑益として処理する。
2. 前期に貸倒処理した売掛金が当期に回収された。回収時に以下の仕訳をしていたので、適正に処理する。
(借方) 現金 8,000 (貸方) 売掛金 8,000
3. 期末受取手形および売掛金残高に対して 3% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
4. 備品は耐用年数 8 年にわたり、定額法(残存価額はゼロ)で償却を行っている。なお、備品のうち ¥60,000 は 6 月 1 日に購入したものである。
5. 期末商品棚卸高は ¥50,000 である。
6. 支払家賃のうち ¥30,000 は 11 月 1 日に向こう 1 年分を支払ったものであり、未経過分を月割で計上する。
7. 給料の未払分が ¥34,000 ある。
8. 借入金について支払利息の経過分(3 か月分)を月割で計上する。なお、利率は年 2% である。